

皆さんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

公益財団法人 日本盲導犬協会
発行人 井上 幸彦
223-0056 横浜市港北区
新吉田町6001-9
TEL.045-590-1595
FAX.045-590-1599
<https://www.moudouken.net/>



盲導犬くらぶ

新しい時代へ踏み出す

育成の手を止めない
どんなに時代が揺れても
命をつなぐ
しなやかに たくましく



次に向かって歩みます

会報誌は今回が101号です。いつものように「盲導犬くらぶ」という題字があって、季刊というリズムも変わりませんが、100号という節目を越えたせいか、「次に向かって」という清新な歩みが始まったような気がします。100号を記念して、盲導犬をめぐるエピソードを募ったところ、たくさんの手紙やメールをいただきました。どうもありがとうございました。「パピーウォーカーの活動を通して子供たちが学校へ行く自信をつけました」「草野球の安打数に応じて盲導犬へ寄付します」……。熱い文面が

ら、確かな力をもらいました。コロナ禍で社会は緊張を余儀なくされていますが、協会は動きを止めません。会報誌101号の「スタートライン」には10人が紹介されていますが、今回で8頭目というベテランの犬かほるさんはこう言います。「共同訓練は受けるたびに学ぶことばかり。悪い癖や勘違いを修正するのは、協会も現下の状況にしなやかに応じながら、誰一人取り残さない「共生社会」の実現に向かって歩みます。

TOPICS!

盲導犬歩行の必需品 ハーネスバッグをいただきました

盲導犬のハーネスに装着されているハーネスバッグをご存知でしょうか。なぜ必要なのか、何が入っているのか、よく質問されます。ユーザーにとってハーネスバッグは収納機能として重宝するだけでなく、「盲導犬」の表示をするために重要なものです。身体障害者補助犬法で

その表示が義務づけられているからです。盲導犬と外出する際には欠かせないものですから、汚れや消耗もあります。

その現状を知って社団法人日本自動車販売協会連合会（自販連）より、昨年11月、ハーネスバッグの製作・提供をいただきました。自販連は1988年に「公益信託自販連盲導犬育成基金」を創設、長年にわたり盲導犬育成へのご支援を継続くださいました。今回は全国盲導犬施設連合会加盟の8育成団体に600個のハーネスバッグが寄贈されました。

ハーネスバッグの中には、犬の排泄時に使用する袋や用具、足ふき用のタオルなどの他、盲導犬使用者証や犬の健康管理手帳を入れて、いつでも取り出せるようにしているユーザーもいます。ピカピカのバッグで気分もあらたに盲導犬との外出を後押しします。



→ バッグの色は赤、黄色の2色。新たに盲導犬を取得された方を中心にお渡ししていきます。

日本盲導犬協会の歩み 2020.10.1~12.31

- 10月14日 第7回常任理事会
- 10月29日 第3回理事会 第2回評議員会
- 11月16日 第8回常任理事会
- 12月4日 職員による研究発表大会(オンライン開催)



盲導犬貸与式
←10月18日 仙台訓練センターで日本自動車販売協会連合会による盲導犬貸与式を開催。ユーザーも参加し、メディアでも報道がされました



↑12月9日 島根県益田市立益田小学校で学校キャラバンを開催。3年生約60人に声かけの大切さを伝えました



→10月8日 横浜市中区役所の職員が神奈川県訓練センターで人権セミナーを受講。感染対策を万全にして実施しました

TOPICS!

協会業務についての職員研究発表大会

協会の日常業務に関する職員による研究発表大会が昨年12月4日、神奈川など四つの訓練センターと東京事務所をオンラインで結んで行われました。発表された演題は15を数え、分野もパピー育成や引退犬との向き合い方、さらには犬の熱中症対策や皮膚トラブルへの対処、盲導犬ユーザーが感じる社会的障壁の分析など多岐にわたりました。盲導犬訓練士学校の在校生による成果発表もありました。

「視覚障害者の屋内歩行アプリの紹介と、AR（拡張現実）技術の展望について」といったように、ICT技術の急速な進展に言及する試みもありました。いずれの発表も収集された豊富なデータの分析や実験映像に裏付けされていて、職員がそれぞれの持ち場で問題意識を持ち、少しでもユーザーの役に立ち、犬たちの育成、福祉に貢献するという意欲が伝わってくるものでした。

TOPICS!

見えない、見えにくい人へ向けた 未来の歩行機器 「AIスーツケース」開発に協力

視覚障害の方が、カメラやセンサー、そしてAI・ロボット技術を搭載した小型スーツケースを手を持ってガイドされ、音声案内を聞きながら歩く。そんな未来の歩行機器の開発がメディアでも話題になっています。この誘導型ロボット「AIスーツケース」の開発に協会も協力しています。

シヨンの中で、多和田理事は、AI技術を活用するにあたって、実際に視覚障害の方が使う際の歩行指導の重要性にも触れました。盲導犬や白杖歩行指導で培った知見が未来の歩行技術にも生かされていきます。

昨年12月3日、日本アイ・ビー・エム本社ビル内で行われた「AIスーツケース」の実証実験にアドバイザーとして多和田悟・常任理事が参加、テスト歩行をしました。盲導犬や白杖をつかった歩行に加えて新たな歩行手段が加わることで「視覚障害の方の歩行の選択肢が広がる」と期待されます。

実証実験では、実際にアイマスクをして歩き、動きや使いやすさなど、多方面から開発へ向けた具体的なアドバイスをしました。本プロジェクトの技術統括責任者であるアイ・ビー・エムの浅川智恵子氏は、ご自身も視覚障害があり、技術者としてはもちろんユーザーの視点からも機器の機能を追求しています。ディスカッ



↑浅川氏にスーツケースの機能について聞く多和田理事。アドバイスや提案をしました
←カメラやセンサーからの情報と、AI・ロボット技術を組み合わせた視覚障害者向けの歩行機器（一般社団法人次世代移動支援技術開発コンソーシアムが開発）

●各センター活動報告(10月~12月)

(2020年12月31日現在)

		神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター
訓練・ユーザーサポート	共同訓練	6回	2回	1回	2回
	パピーレクチャー	35回	9回	11回	8回
	パピーウォーキング修了式	3回	1回	0回	0回
	ユーザーフォローアップ	69回	81回	22回	12回
リハビリテーション	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	1回	13回	6回	6回
	短期リハビリテーション	0回	2回(6人)	0回	0回
啓発活動	その他リハビリテーション	16回(32人)	159回(150人)	92回(186人)	43回(25人)
	見学会・団体見学	4回	4回	24回	5回
	講演・実演・募金活動・受け入れセミナー	50回	83回	32回	10回

メディア掲載件数	
テレビ・ラジオ	19回
新聞	59回
WEB	329回
その他(雑誌など)	25回

主な放送・掲載	
10月5日 東京新聞他3紙WEB2件 富士ハーネスで富士中央ライオンズクラブ贈呈式開催
10月10日 毎日新聞他WEB2件 今期のACジャパンCMについて山口専務理事のコメント紹介
10月24日 朝日新聞他2紙TV2局WEB4件 日本自動車販売協会連合会(鳥取県支部)の盲導犬貸与式開催
10月27日 日刊自動車新聞他1紙 日本自動車販売協会連合会(宮城県支部)の盲導犬貸与式を仙台訓練センターで開催
11月6日 朝日新聞他7紙TV・ラジオ2局WEB83件 オンライン盲導犬受け入れ・接客セミナー
11月9日 朝日新聞他3紙TV1局WEB4件 第12期島根あさひ盲導犬パピー・プロジェクト委託式開催
11月19日 共同通信PRWire他WEB47件 行政職員向け盲導犬オンラインセミナーのリリース
12月1日 千葉テレビ他1紙WEB8件 北総鉄道の印西牧の原駅で鉄道講習会開催
12月9日 秋田放送他1紙TV2局WEB8件 パートナースドッグ秋田の寄付金贈呈式開催

視覚障害者を 孤立させない

「お困りのことは ～漏れなく情報を

視覚障害の人にとって、行政の福祉窓口は障害者手帳の交付を受けたり、行政サービスの申請方法を尋ねたり、生活に直結する大事な場所です。協会は盲導犬ライフを伝えるだけでなく、視覚障害の人にとっての「必須の情報」「役立つ情報」を行政と手を携えて届けたいと考えています。行政職員向けの「盲導犬オンラインセミナー」を開始し、具体化に踏み出しました。



↑図表を交えた発信は、テーマにそって富士ハーネスから神奈川へ、さらに仙台訓練センターへと臨機応変に展開。聞く方も全国に広がり、オンラインの特徴が発揮されました

歩行の選択肢として盲導犬もあります

オンラインセミナーの1回目は昨年12月11日に行われ、県や市、区など23団体が参加しました。

講師役の協会職員はまず、視覚障害の人の外出に盲導犬歩行という選択肢があると伝えましたが、盲導犬については育成団体で貸与条件が違ったり、都道府県からの助成も障

害の等級で受給対象から外れたりする事例に言及しました。当事者は「どうなっているの」と困惑するに違いあ

りません。盲導犬の貸与一つとっても分かりにくいのが実際です。

都内のユーザー藤本悠野さんは、役所の窓口でもらった「福祉のしおり」に「補助犬の給付」の項目はありま

したが、対象は障害者手帳「1級」となっていたので盲導犬は諦めていました。「2級の自分では駄目か。全盲の人が持つものなんだ」。

ところが4年ほど前、知り合いが日本点字図書館で盲導犬の体験歩行をし、ロービジョン（全盲ではないが、見えにくい視覚の状態、生活に支障をきたす）でも可能らしいと教えてくれました。



←盲導犬イルミーと歩くのは楽しい。山上さんにとって、緑内障で家に籠りがちになった時、市役所から届いた白杖歩行体験のお知らせが転機に



日本盲導犬協会への問い合わせからとんとん拍子で実現へ向かいました。

「役所で、例えば協会のパンフレットなどが渡されるだけでも違います」。行政と協会の連携、それは決しておかげさなことでなく、当事者からすればちょっとした心配りを連絡し合ってお互いしたいということでしょう。

「もっと早くこの情報を知っていたら後悔する人をなくしたい」

静岡県伊豆の国市の山上隆幸さんは役所から「白杖歩行体験」の手紙をもらい、思い切って参加しました。外出は家族の手引きに頼り切りで、家族に用事があればままならず、筋力低下を感じていました。白杖にも抵抗感があり、このまま寝たきりになるのか、不安におびえましたが、白杖歩行訓練により一人で歩く希望がわきました。「市役所からの情報は本当にありがたかった」。

セミナーで協会職員がウェブ・カメラに向かって語りかけました。「大事なのは市町村の福祉窓口での情報提

ありませんか？」 届けたい

協会が連携を求めて 行政職員向けに セミナー開催

供です」。見えない、見えにくくなったら、いかに早く福祉や教育といった支援機関につなげるかが肝要なのです。歩行訓練、特別支援学校、視覚障害リハビリテーションセンター、点字図書館、就労支援施設、拡大読書器や音声パソコンといった福祉機器――。

視覚障害は情報障害です。セミナーでは協会職員が視覚障害の人がもらった嘆息を伝えました。「行政窓口で手帳をもらっても、(情報障害を補う)情報をもらえなかった」「もっと早く知っていたら、生活は変わっていたのに」。

住民の申請主義による行政システムでは、欲しい補装具や日常生活用具にたどりつくのは当事者だけではないへんです。山上さんの「ありがたかった」という述懐は、全ての福祉窓口へ向けたエールです。振り返れば、白杖が足がかりになり、盲導犬歩行にもつながりました。

盲導犬の受け入れ拒否 決して難しい課題ではない 行政とのタッグで発信強化

飲食店に医療機関、スーパーやコンビニ、ホテルにタクシーやバス。身体障害者補助犬法、障害者差別解消法で盲導犬の受け入れは義務化されていても、実際は行き渡っていません。セミナーで協会職員は「盲導犬貸与の仕組みがあっても社会での受け入れが進まない、視覚障害者の社会参加は進みません」と現状を語りました。

協会ではユーザーが受け入れ拒否に遭い、本人の説明でも納得してもらえない時は、連絡があれば先方とユーザーとの仲介に入ります。2019

年度はその件数は90件ののぼりでしたが、そのうち一度の電話で解決したのが76件、訪問して話し合いで納得したというのが9件、未解決は5件でした。

宮城県石巻市のユーザー若山崇さんは地元から離れた街で、時に受け入れ拒否に遭います。「今まで犬を入れたことがないから」「他の客に迷惑がかかるので」。何人かで連れ立って行った時に、幹事役が店頭で断られる際の決まり文句だそうです。そんなことがあると、若山さんは後日、店に電話して「盲導犬は静かに足元で待機しています」などと説明し、実際に店を訪ねて見てもらいます。「盲導犬の姿を知ってもらいたいから」。

セミナーで協会職員は続けました。「受け入れ拒否は、盲導犬を正しく知らなかった事業者によるちょっとした不安から起きています」。ならば、事前に正しい知識があれば受け入れはスムーズになるはず。補助犬法によるトラブル相談の窓口は県や政令市などに設けられています。「盲導犬受け入れセミナー」を役所と共催できませんか。多くの人に来てもらえるように連携を強めませんか。協会からの呼びかけの声が響きました。



↑広島県呉市の「市政だより」(2020年1月10日発行)の表紙を飾ったユーザー高義和さんと盲導犬エレナ。この絵柄には「共生社会」を考えるきっかけになれば、の思いが込められているそうです。「一緒に歩いていこう」の呼びかけが響きます

「日本盲導犬協会」を 知らせて

講義や質疑応答の1時間余のセミナー。締めくくりに、協会ユーザーサポート部の金井政紀管理長が参加へのお礼を述べました。そして「日本盲導犬協会の存在を窓口で知らせて下さい」「情報を知らなかったばかりに後悔する人をなくしましょう。そのために太いパイプで連携させて下さい」と強くお願いしました。セミナーは21年も1月26日、2月25日、3月21日に実施されます。

コロナ禍での 盲導犬受け入れどうする？

協会は昨年11、12月、オンライン版「盲導犬ユーザー受け入れ・接客セミナー」を6回開きました。「犬から人への感染例はありません」「一般的な感染対策をして通常通りのサポートをして下さい」。Web上でユーザーも登場し、「こちらが判断する情報をできるだけ多く欲しい」と訴えました



応援 Message

アーティスト 齊藤和義さん

2019年度ACジャパン支援広告「君と一緒にだから」で、テレビコマーシャル用の楽曲を提供くださった齊藤さん。盲導犬同伴での受け入れ拒否の課題について取り上げた本作品では、『一緒にふたり』のメロディーにのって、ユーザーと盲導犬が楽しげに歩むさまがイラストで描かれています。楽曲提供に至った経緯や、曲に込めた思いなどをうかがってみました。

→盲導犬育成事業に共感 ユーザーと盲導犬が歩む2人の世界を音楽で表現してくださいました



Q 2019年度ACジャパン「日本盲導犬協会CM」の楽曲提供に至った経緯を教えてください

今回のお話をいただく少し前に、たまたま東京大学教授の福島智さんと作家の北方謙三さんの対談本を読んでいました。幼い頃に失明し、十代の終わりに聴覚も失った福島さ

んと自分は、「障害者」と「健常者」に区別されるのかもしれないけれど、考えていること、感じていることは少しも変わらないんだよね、としみじみ感じていた時期だったので、盲導犬



と一緒にだとしてもらえないお店があるという現実を知ってさみしかったし、どのお店にも入れるようになるといいよねと思ってお引き受けしました。

つい最近、グレイトフル・デッド※のドキュメンタリーをネットで観ていたら、ライブ会場に目の見えない人たちが耳の聞こえない人たち専用のエリアがあって、耳の聞こえない人たちは大きな風船を抱えながら振動で音を感じ、手話で歌の内容を理解していた。ああ、こういう音の伝え方もあるのか、と驚きました。ハンディのある人もない人と同じ体験ができるべきだとすごく思うし、そのための配慮や工夫をもっとしていけるといいですね。

※1965年アメリカ・サンフランシスコで結成されたロックバンド。ヒッピームーブメントの象徴的存在でもあった。



どこへ行くのも
一緒にふたり
暑い日寒い日でも
星をつかまえて
行こうよ
新しい世界

(歌詞よりCMで使われた部分を抜粋)

↑2019年度ACジャパンCMソングとして使用された『一緒にふたり』CDジャケット。2020年8月12日にフルバージョンとして発売され話題となりました

→コンサート会場にてユーザーの足元でリラックス。犬の寝言が会場に響くのではとヒヤヒヤした、拍手喝采でコンサートが終わったとわかるのか、犬が立ち上がる、そんな楽しいエピソードも



Q CMソング「一緒にふたり」に込めた思いをお聞かせください

“一心同体”です。ユーザーの目となり支える存在なわけだから、ユーザーの信頼感は計り知れないだろうし、盲導犬も自分の役目を自覚し、役に立てることを喜んでいるなら、相思相愛で素晴らしいと思う。自由気ままな猫だとそうはいかないでしょうけどね(笑)。ユーザーと盲導犬だけに通じるテレパシー的なものもあるんじゃないか、と勝手なことを思ったりもしていました。

Q 盲導犬について聞いてみたいこと、知りたいことは?

いろいろありますよ。例えば、ロックコンサートの会場に盲導犬と一緒に来ることはできるのか、とか。音があまりに大きいと、犬はびっくりしちゃうのかな。野外の夏フェスとか音が分散する会場なら大丈夫だったりするんですかね。

Q 「犬も含め誰の犠牲の上にも立たない」盲導犬事業を信条としていますが、齊藤さんも愛猫家であり、動物福祉への関心も強いと思います

自分もそうだけど、家に猫とか犬とか動物がいる人はきっと、“飼っている”という感覚じゃなくて、“一緒に暮らしている家族の一員”と捉えているだろうし、そういう関係がいいんじゃないかなと思いますね。家族の一員なら当然大事にするだろうし、最期まで面倒を見るのも当たり前のことだろうし。そもそも猫や犬を“商品”として扱い売買することには、すごく抵抗があります。それがなければ無理な繁殖をさせられたり、生まれて間もない子猫や子犬が命の危険を顧みずに飛行機で運ばれたりすることもなくなるよなあって。だから動物と一緒に暮らしたいと思う人は

まず、保護猫や保護犬の里親募集をしているところに連絡して欲しいですね。ネットですぐに見つかりますよ。審査も厳しいらしいけど、それは人間と動物、お互いの幸せにとっても大事なことだと思う。アメリカですでに動物を売るペットショップは存在なくて、動物を飼いたい人は里親募集や譲渡を行っている機関から譲ってもらうか、国から認められたブリーダーと直接やり取りするらしい。すごくいいシステムだと思うし、日本も早くそうならないかな。ただこれは、犬や猫に関してだけ言えること。豚や牛や鶏のことはどう考えるのか、自分の中でも矛盾していて答えが出ないんですけどね。

最後に、盲導犬の育成に関わっている人たち、ボランティアの方たちへのメッセージをお願いします

とても素敵なお仕事だと思います。大変なこともあると思いますが、頑張ってください。

メッセージを通じて、齊藤さんの音楽と向き合う真摯な姿勢や、動物へ向けられた深い慈愛、温かいお人柄が伝わってきました。



齊藤和義さん Profile

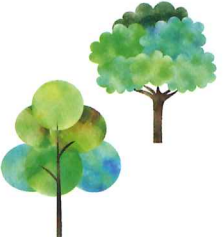
1966年生まれ栃木県出身。1993年シングル『僕の見たビートルズはTVの中』でデビュー。翌年にリリースされた『歩いて帰ろう』で一気に注目を集める。代表曲である『歌うたいのバラッド』『ウエディング・ソング』『ずっと好きだった』『やさしくなりたい』は様々なアーティストやファンに愛される楽曲となっている。犬の猫好きとしても知られている

ご質問にお答えします!

ユーザーは盲導犬と一緒に様々なコンサートに出かけ楽しんでいらっやいます。

ドーム級のロックコンサートをアリーナ席で楽しむ、ライブハウスで生の音を感じる、クラシックコンサートでオーケストラの迫力に酔いしれるなど、様々です。コンサートを楽しみたい!というユーザーには、そういった環境でも落ち着いていられる性格の犬をマッチングします。一方ユーザーも、内容や時間を調べて舞台やスピーカーから距離をとったり、移動しやすい席を選んだりなど、犬の特徴を考えて、できるだけ負担のかからないよう配慮をしています。会場では、犬たちはユーザーの足元で落ち着いて寝ていることもしばしばです。

島根あさひ盲導犬パピープロジェクト 12期の委託式4頭



↑第12期のパピー委託式、命をしっかりと抱きしめます

法 務省の矯正施設・島根あさひ社会復帰促進センター（浜田市）で昨年11月9日、第12期パピープロジェクト委託式が行われ、島根あさひ訓練センターから4頭のパピーが訓練生（受刑者）に引き渡され

ました。今期の訓練生は18人、4班に分かれて取り組みます。委託式で、協会の多和田悟常任理事は「叱るだけでは犬は育ちません。褒めるだけでも育ちません。バランスが大切です。

国から「安全安心なまちづくり」の表彰

受 刑者の改善指導プログラムとして「盲導犬パピーを育てる」という活動に11年間協力してきたとして、島根あさひ訓練センターが国による「安全安心なまちづくり関係功労者」に認められ、昨年10月16日、井上幸彦理事長が出席して首

相公邸で表彰されました。地域のボランティアとも連携してパピープロジェクトを通して、09年から20年1月までに訓練生276人の社会復帰に寄与したというのが表彰理由でした。表彰は、それぞれの地域で「防犯」や「再犯防止」に取り組む16団体。式



↑表彰式では、菅首相から表彰状とともにずっしり重い記念の盾が贈られました。2列目右端が井上理事長



心を込めて付き合ってください」とエールを送りました。訓練生からは「パピーを受け取ったとき、命の重みを感じました。絆や信頼関係を深め、パピーと共に成長したいです」という話がありました。

このプロジェクトには訓練生の協調性や責任感、思いやりの気持ちを育み、社会復帰を促すという趣旨が込められています。またパピーについては人とのかわり方など、盲導犬に欠かせない社会性を身につける「子育て」が求められます。平日は訓練生が、週末はボランティア家庭が育てます。2009年の開始から62頭のパピーが育ち、うち13頭が盲導犬になって活躍しています。

これまで「委託」は3月、「修了」は翌年1月でしたが、昨今の気候変動を考慮して盛夏を外し、今回からはプロジェクト期間を11月から翌年7月初旬までとしました。

典で、菅首相は「安全で安心な日常は、自助・共助・公助、そして人々の絆から生まれます。このような地道な活動は地域の絆をつくります」と、今後の活躍への期待を述べました。

↓パピーを定期的に連れ出し成長を見守る島根あさひ訓練センターの職員。社会性を育むには、いろいろな経験が欠かせません



盲導犬育成を支える ボランティア LIFE

家族の歴史は盲導犬と共に ボランティアを始めて27年

（富士ハーネス パピーウォーカー ●望月さん一家 ●（甲府市））

問 もなくパピーの修了式を迎えます。望月英昭・朋子さん夫婦にとってディーヴォは9頭目ですが、「この時期は抱きしめたり、写真を撮ったりする回数が多い」と感慨深げに語ります。

夫 妻がパピーウォーカーを始めたのは、協会の訓練所が神奈川県茅ヶ崎市にあった1994年のこと。5頭を育てたところで縫製ボランティアも併行してやり、次に引退犬飼育ボランティアとして3頭を見送り、またパピーウォーカーに戻って3頭を育てました。blankを挟んでボランティア歴は通算20年、ちょうど長女と同じ年齢分を盲導犬と共に歩んできました。

き っかけはNHKラジオで聞いた「5頭のうちあと1頭のパピーウォーカーが決まっていない」という呼びかけでした。夫婦は偶然にも別の場所で番組を聞いていて、夜、自宅で応募を決意。パピーとの生活は目まぐるしい日々でしたが、いつの間にか5頭を育てていました。

朋 子さんは自らの出産を機にパピーウォーカーを休み、縫製ボランティア、盲導犬の服づくりを始めました。フリフリの盲導犬ドレ



↑左から英昭さん、大学生の長女堯深さん、9頭目パピーのディーヴォ、朋子さん。七五三や信玄公祭りによく行く地元の武田神社へ、ディーヴォの幸運を祈りに。左の写真は4歳の堯深さん

ス、人と犬のペアルックなど、朋子さんが作った服を着て歩くその姿に元気をもらいました。

や が育てたパピー2頭が盲導犬を引退することになり、思い切った飼育を引き受けました。3歳になった長女の堯深さんとおもちゃを取り合い、家の中が一気ににぎやかになりました。亡くなる瞬間は家族全員が奇跡的に家にそろっていて、最期まで世話ができたことに幸せを感じました。一方で、見送るたび落ち込む長女を見て「いつかパピーウォーカーも経験させてあげたい」という気持ちが募り、長女が17歳になった3年前に活動を再開したのです。

再 開の裏には「人とのつながり」もありました。



←10歳になった堯深さん、3歳のときは未っ子の立ち位置が、このころはすっかりお姉さんに

実は長く懇意にしていた大先輩のボランティアが病床に伏していたとき、パピーウォーカーの再開を約束し、遺志を引き継いだのです。「ボランティアをしていると、心がじーんとする出来事が多い」。周囲からよく「パピーは約1年の期限があるのに、なぜそんな寂しいことを続けているのか」と聞かれます。パピーとの生活は何ととっても楽しく、1頭1頭個性があって面白いのです。

コ ロナ禍で動きにくいときでしたが、幸い家の前は通学路。ディーヴォの社会化のために子供たちが登下校するときを狙って一緒に歩きます。家ではベランダ越しに日差しが入る暖かい場所によく寝ます。ここは歴代のパピーや引退犬たちのお気に入りの場所でした。家族の歴史や思い出が詰まっている場所に次はどんな子が「ハウス」をするのか……新たな出会いを見据えています。

スタートライン Start Line

皆様のご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2020年12月までの共同訓練卒業生

- 各ユーザーの紹介項目
- ユーザー名・在住地(盲導犬歴)
- 盲導犬名(雄/雌) 犬種
- ①共同訓練期間
- ②パピーウォーカー名
- 犬種記号
- LR: ラブラドル・レトリバー
- GR: ゴールデン・レトリバー

神奈川訓練センター

「夜は怖くて歩けない」から一転「アメリと一緒になら大丈夫」自ら判断する大切さを知る

毎週月曜日の朝はスーパーへ買い物に行きます。収穫前のキャベツが並ぶ畑道を通ります。いろいろなにおいがしてアメリにとっては誘惑が多いですが、「ヒール」の指示でしっかり横につけて、自信を持って一人で外出を楽しみます。

英語が好きで、27年ほど自宅で英語教室の先生をしていました。しかし、ある日、板書した自分の字が見えなくなり、4年前に教室をたたみました。やりがい奪われましたが、視力の悪化は避けられないと覚悟して、13年ほど前から盲導犬体験歩行会にボランティアの手を借りて参加していました。年に1回開かれる会には皆勤賞で、盲導犬の取得に強い希望を持っていました。

昨年夏の終わりから始まった共同訓練では、夜間の訓練に苦労しま



した。ロービジョンでわずかに見えますが、夜は街灯や車のヘッドライトしかわからず、日中との見え方のギャップを大きく感じます。「一人で白杖はくじょうを使って夜に外出することは怖くて絶対できない」。

盲導犬を持てば夜も快適に歩くことができるはずでしたが、うまくできません。これまで外出は家族などの肩を借りるこ



←アメリは素直で優しく、甘えて頭をすりよせてくると抱きしめたくります。家の中ではお気に入りのおもちゃを使って、宝物探しをするように遊んでいます

↑共同訓練中に訪れた公園。自然豊かな道を気持ちよく歩き、アメリも尻尾を上げて楽しそうな様子でした

とが多く、「地図を頭に浮かべながら」自分で判断して歩く経験があまりなかったのです。

「視覚に頼らなくても歩けるように、周囲からの情報を得なくては」。その情報はアメリが伝えてくれるものでした。だけど、慣れない作業は思うように進まず、「私にはできないかも」と落ち込むことも。諦めたくない気持ちとせめぎ合いが続きました。

地図をしっかりと頭に入れて歩き出し、昨日はたどり着けなかった目的

地に今日では行けるように、成果を一つずつ積んでいきます。「道の様子分かるようになれば怖くなくなるかも」。希望の光がさしてきました。

訓練センターでの夜間訓練が「環境変化」の訓練にもなり、自宅周辺に移動してから大きな戸惑いはありませんでした。暗闇への恐怖は薄れてきましたが、地元で「分かっていたつもりなのに気づきました。歩道や段差がない道で、角を見逃してしまったのです。アメリに全てを委ねるのではなくハンドルから伝わる情報を自分で判断し、あらかじめ角や交差点などポイントが分かりやすいルートを選んだりしました。

実は認定後、夜への恐怖が全く消えたわけではなかった大友さん。1か月後に訓練士のフォローアップを受けた帰り道のこと。日没の時間帯で最寄り駅から30分歩いて帰宅できました。道中はしっかりした足取りで、「不安が一切なく、自信がつかえました」。無機質な白杖ではなく、生きて温かみのあるパートナーが隣にいてくれる安心を一番感じた出来事でした。あんなに怖かった夜の外出も今では、好きなアーティストのライブにも一人で行ってみたいと思えるようになりました。

家では夫と娘二人の四人で暮らしています。家族みんなが動物好きで、アメリがきてからはかまいたくて仕方がないようです。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたなら、家族みんなで行きたいと明るい未来を想像します。



櫻井 洋子さん
さいたま市(3頭目)
トリトン(♂)LR
①2020.11.9~11.26 ②望月 朋子さん

前のスカイ急逝の絶望から希望へと導いてくれたトリトン。その優しい温もりに支えられ、当たり前前の日常に戻ることができました。きっとスカイが連れてきてくれたのだと思います。これから互いの人生を、大好きなブルーカラーで心のキャンパスに描いてゆきたい！トリトンは、私のライフワークである手話劇団の仲間に大きな拍手で迎えられ、2月に初舞台。トリトンの美しい瞳に、たくさん笑顔の花を写してあげたい。

森谷 玲子さん
東京都昭島市(2頭目)
ジョージ(♂)LR
①2020.9.21~10.2
②城所 正典さん

最初は呼んでも知らんふり、これは手ごわいと気持ちを引き締め、毎朝おもちゃ投げなどをして遊び、丁寧にブラシかけをしました。すると少しずつ「この人は特別な人」と思い始めたようです。自宅では新しいことが多いせいか、後をついて回り、股ぐりを繰り返してうれしそうにしています。遊びたがりのジョー君ですが、1年もすれば落ち着いて堂々たる盲導犬になるでしょう。相棒君、楽しみにしているよ。



豊田 悠子さん
東京都世田谷区(3頭目)
ラズベリー(♀)LR
①2020.10.12~10.24
②西方 一枝さん

ラズベリーは私の3頭目の盲導犬。元気ないたずらっ子で、指示とは別に顔の向いている方向に進むので私の思う場所に着かない事もあります。先輩ユーザーのアドバイスで少しずつ改善傾向です。マッサージとボディチェックを兼ね「グッド・ラズベリー」となるとはグッドクリームを身体にすり込む毎日です。即効性はありませんがゆっくり効果を期待しつつ楽しい盲導犬ライフを夢見ています。



アキバ AKIBA FUCOIDAN
アキバ フコイダン
秋葉薬品は日本盲導犬協会を応援しています。
秋葉薬品株式会社
tel.03-5577-5645
akibayakuhin.com/fucoidan/

仙台訓練センター



「二頭目の盲導犬と 秋うらら」。地元紙の文芸投稿欄に載った俳句です。それも知り合いから「替わったんだね」とよく声をかけられます。黒からイエローになったので目立つようです。オークは力強く速い。散歩では私も大股になり、これが「風を切る」なのか、を実感。曲がりくねった道でも角をきちと教えてくれるので、体が寄せ甘えてくるので、心がほっこりします。なじみの喫茶店も1度で覚えたのでびっくりしています。

椎 カヨ子さん
新潟県佐渡市(2頭目)
オーク(♂)LR
①2020.9.14～9.28
②柏倉 智明さん

毎朝6時にハクチョウのいる川沿いの散歩を楽しんでいます。ハーネスの持ち手がパーハンドルに変わり、ハクチョウの声に少し顔をあげる動きがよくわかります。小柄で顔もかわいらしいアッシュは、習い事の仲間や孫に大人気です。孫は小さいときから1頭目と過ごして優しく思いやりのある子に。中学生になって「アッシュたちが頑張っているから自分も」と部活に励む成長した姿をうれしく感じます。



佐藤 光子さん 秋田市(2頭目)
アッシュ(♀)LR
①2020.10.8～10.23 ②星 芳則さん

初対面で尻尾の振りがあまりにも大胆で、歩きもグイグイと力強く驚きました。ついていけるか心配でしたが、スピードの調整を教わり自分のペースで歩けるように。ただ、新しい場所へ行くと一緒にうれしくてはしゃいでしまうので、まず私が落ち着くのが先ですね。私の性格をよく知る訓練士から注意点のメモをもらい、時々それを見ながら「よし、これはOK」「あれ、これは気を付けなきゃ」とチェックしています。

石川 登志子さん 新潟市(3頭目)
ジョン(♀)LR
①2020.9.14～9.30 ②安友 政男さん



島根あさひ訓練センター

安藤 修二さん
仙台市(2頭目)
コナン(♂)LR
①2020.10.8～10.21
②上廣 耕治さん

32kgから22kgの盲導犬に。初対面では「(前の子と比べて)すいぶん小さいな。一緒に歩けるだろうか」と心配しましたが、忙しい毎日にもかかわらず、忙しさを分かってくれて、フルタイムの仕事に大学の非常勤講師や趣味の車いすダンスなど外出が多く、盲導犬との歩行は生活の要です。この子たちのおかげで道が開けました。日が浅くてコナンの性格は正直まだ分かりませんが、じっくり信頼関係を深めていきたいです。



アルファはとても繊細で真面目です。ホース投げが大好きで、遠くに投げても必ず取ってきます。共同訓練は受けるたび学ぶことばかりで、悪い癖や勘違い部分の修正、あやふやな場所の確認などしました。頭の中で地図を描くのは本当に難しいです。コロナが収まったら弟妹がいる兵庫や北九州、友人と映画や食事にも行きたいです。少しでも長く楽しい時間を過ごせるように健康に気をつけます。



比奈 幸三さん
広島県福山市(2頭目)
ジェフ(♂)LR
①2020.9.29～10.14
②重森 順恭さん



1頭目を持つ数年前に脊椎を悪くして医師から「10年歩ければいい方」と診断されました。それから15年、ジェフとも歩けて気持ちは前向きです。自宅周辺の坂道も力強く歩き、小学生の点字教室で行く学校への道も慣れたものです。初めは続くか自信がなかったけれど工夫を凝らして13年、児童たちの生の声が聞けてうれしいです。学期の最後は点字の年賀状作りを手ほどきし、充実感がありました。

大津 かほるさん 長崎県平戸市(8頭目)
アルファ(♂)LR
①2020.11.16～11.30 ②小野 光広さん

無理なく、続けられる
NATURALLY PLUS ナチュラループラス®
The Global Healthcare Company
私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。

株式会社 ナチュラループラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー35F
TEL 03-6230-3311 FAX 03-6230-3011 URL <http://www.naturally-plus.com>

intage
Know today. Power tomorrow
株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ <http://www.intage.co.jp/>
キューモニター募集 <https://www.cue-monitor.jp/>

JADA 一般社団法人日本自動車販売協会連合会
JAPAN AUTOMOBILE DEALERS ASSOCIATION
自販連では、公益信託自販連盲導犬育成基金を設立し、全国の目の不自由な方々に、盲導犬貸与の助成事業を行っております。

〒105-8530 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館15階
TEL : 03-5733-3105

わかさ生活。マンガで分かる盲導犬の一生
盲導犬ペリ〜
全3巻
わかさ生活は盲導犬の育成を応援しています。

心がふれあう

Heart to Heart

盲導犬もっと知って!

～受け入れを後押しするシールアート～

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介します



シールアートに参加するお客様。貼り終えたシールの用紙は隣のアンケートボックスで回収し、お客様の声を集めます

ケートも行われています。アンケートの内容は「よく行くお店に盲導犬がいたらどう思いますか?」。行きつけのお店に盲導犬がいる姿を想像し、表情がほころぶお客様。盲導犬へのイメージは好意的で、「気にならない」や「うれしい」の箱にシールの用紙が集まります。

今回の活動の様子を見た、会場の一つ「エスパル仙台」の販売促進グループマネージャー松井良浩さんは、「お客様にも安心して盲導犬ユーザーと一緒に買い物を楽しんでほしい。こうした活動は従業員だけでなく、お客様や社会全体へ理解を広めるきっかけとなるため、継続して協力していきたいです」と話します。

後日、完成したシールアートは一定期間、館内に展示され、盲導犬への理解を従業員や買い物中のお客様へ呼びかけ続けています。一方的に「受け入れて」では理解は広がりません。お店側とお客様の双方の声に耳を傾けながら、「受け入れが当たり前の社会」を目指した活動はこれからも続きます。

完成したシールアート。一人でも多くのお客様に理解をと話す松井さん(写真左)とエスパル仙台の皆様



● きっかけは 飲食店の不安の声

「盲導犬ユーザーを受け入れる際に気になることはありますか?」。これはスマイルワン仙台で行った約800店舗の飲食店責任者を対象とした盲導犬の受け入れに関するアンケートの質問の一つです。回答として「特にない」に次いで多かったのが「他のお客様の反応」で、「犬が苦手な人がいるのでは?」「子供が怖がるのでは?」と不安の声が上がりました。お店側が安心して受け入れるためにできることはないか? スマイルワン仙台では、お客様となる市民が盲導犬の受け入れについて理解を深められるよう、企画を考え「盲導犬シールアート」を商業施設のイベントで行いました。

● 市民とともに作る シールアート

盲導犬シールアートはA1サイズの白い台紙に、募金活動などで配布

している盲導犬シールをお客様に貼ってもらい絵を浮かび上がらせる参加型企画です。浮かび上がる絵は「ほじょ犬マーク」。身体障害者補助犬の受け入れ理解を促進するためのマークです。昨年7月から宮城県内7か所の商業施設に協力をいただき盲導犬シールアートを行いました。

子供から大人まで毎回300人程のお客様が参加。イベントが始まると、何ができるかなと浮かび上がる絵を楽しみにどんどんシールが貼られます。一枚一枚のシールが盲導犬の受け入れを後押しするかのよう、徐々にほじょ犬マークが浮かび上がり、イベント終了時には見事なシールアートが完成しました。

● 市民の盲導犬のイメージは?

会場ではシールアートと同時に貼り終えたシールの用紙を使った投票式のアン

ヨーロッパから お父さん犬が やってきました!

盲導犬の繁殖ネットワークは世界に広がっています
今回は海を渡ってきた3頭を紹介し



2019/12/06 来日



デクスター (イギリス)

日本にきて1年。パピーのときから大切にしているウサギのぬいぐるみがお気に入り

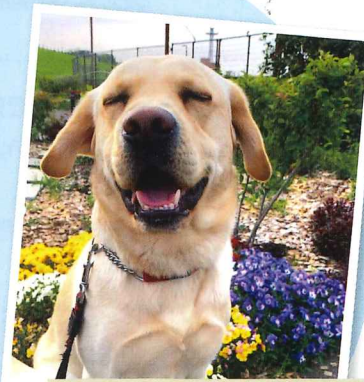


2020/02/19 来日



ヴィンス (チェコ)

体が大きく、おらかな男の子です。ボール遊びが大好き!



2020/03/19 来日



ルバーブ (イギリス)

ロックダウンの直前に出国。小柄ですが、元気いっぱい!

亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
リシアン♀	繁殖引退犬	安藤 寿一さん	2020.9.20
ガウディ♂	芹澤 秀子さん	—	2020.9.20
ピオラ♀	星野 恵美子さん	古川 順子さん	2020.9.24
オヒナ♂	木村 千栄美さん	大森 学さん	2020.10.23
ウィンク♀	石塚 眞智子さん	猪狩 キヌ子さん	2020.11.4
ローズ♀	関東 伸雄さん	間谷 一絵さん	2020.11.20
ドレミ♀	高野 正雄さん	佐藤 弘志さん	2020.11.29
プレス♀	赤塚 セツさん	馬淵 雅生さん	2020.12.2

盲導犬育成状況

合計頭数...689 頭 (2020年 12月 25日現在)

委託前パピー	5 頭	繁殖犬	50 頭
パピー	66 頭	PR犬	25 頭
訓練犬	62 頭	引退犬	166 頭
盲導犬	260 頭	繁殖引退犬	55 頭



お便りをHPに掲載します

会報誌「盲導犬くらぶ」の100号にあたり、みなさまに記念投稿を呼びかけたところ、手紙やメールをたくさんいただきました。一部は100号で紹介しましたが、お寄せ下さった全てのお手紙、メールは協会のホームページ(賛助会員専用)に掲載しております。ぜひご覧ください。賛助会員専用のページはこちらから <http://www.moudouken.net/management/login>

委託しました

父犬ユーザー(LR) × 母犬グリ(LR)	父犬キューイ(LR) × 母犬ホーミー(九州盲)(LR)		
ニース♀	平尾 靖子さん	オリブ♀	江連 悠子さん
ナル♂	松田 教子さん	オブティ♀	浦井 彰さん
ナイア♂	丸橋 剛さん		
ナギ♀	川喜田 一広さん		

引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
エネザ♂	曾根田 孝さん	PR犬として活動中	2020.6.30
ジュピター♀	宮本 武さん・末松 まい子さん	PR犬として活動中	2020.9.9
ウェナ♀	石川 登志子さん	菅谷 康子さん	2020.9.14
ターニャ♀	椎 カヨ子さん	尾形 富寿雄さん	2020.9.14
マッシュ♂	森谷 玲子さん	海老原 むつみさん	2020.9.21
ブレイン♂	比奈 幸三さん	横山 真理さん	2020.9.29
ジョリー♂	佐藤 光子さん	市川 弘之さん	2020.10.8
ヴァン♂	安藤 修二さん	関谷 政友さん	2020.10.8
ナタン♀	豊田 悠子さん	百々 早苗さん	2020.10.12
ユース♂	郡 悟さん	調整中	2020.10.22
ウィッチー♀	坪坂 かほるさん	調整中	2020.11.14
ヴィーノ♂	大津 かほるさん	調整中	2020.11.16
エース♂	望月 操さん・望月 敏彦さん	調整中	2020.12.7

みなさまと協会をつなぐ ハーネスひろば



「共生社会」を目指して内閣府が小中高生から募集した「心の輪を広げる体験作文」で、協会ユーザーの甥、青森県の小学校6年生・金山聖渚君の「盲導犬とともにくらす」が小学生部門の優秀賞（内閣府特命担当大臣賞、3点）に選ばれました。

みなさんは盲導犬を知っていますか。盲導犬は、目の見えない人の歩行のお手伝いをする犬です。本で読んだり、テレビ番組で見たり、最近ではコマーシャルに登場しているので知っている人も多いでしょう。でも、実際に見たことのある人は少ないのではないのでしょうか。実は、ぼくの住む北国の小さな町にも盲導犬はいるのです。

おじのもとに盲導犬が来て、すごく変わりました。以前、おじは白杖という杖を使って歩いていましたが、よくものにぶつかっていました。白杖は長いのでのようなもので、ものにふれたときの振動や音でそこに障害物があることがわかります。しかし、全てにふれることはできずぶつかってしまうのです。慣れている場所でも、目をつぶったらどこに何があるのか分からずぶつかってしまうでしょう。慣れていない場所ならもっと大変です。ですから、以前のおじはあまり外出することはありませんでした。ところが、今ではとても行動的になりました。盲導犬のおかげです。

盲導犬ユアラがおじの家に来たのは、昨年十月です。おじは仙台まで行き、盲導犬との相性を確かめ、合格したのです。初めて会った日から、ユアラはおじの指示を聞き、おじはユアラをとても気に入ったそうです。お互いを信頼できる相手だと認めたのだと思います。

十一月の参観日、五年生のぼくは、道徳の勉強をしていました。朝、母が、「今日の参観日、見に行くからがんばって。」といました。ぼくは、道徳の教科書を読みながら、まだこないのかなと待ちました。すると、ろう下から聞き慣れたカウベルの音が聞こえてきました。まさかと思いました。教室に入ってきたのはユアラとおじでした。ぼくは、(何で来たの。)と思い、びっくりしたと同時に照れくさ

→雪の津軽で賞状を手に写真におさまる金山君。叔父のユーザー三上慎太郎さんと盲導犬ユアラも誇らしそう



くなりました。ぼくの学校は階段などの段差が多く、廊下はせまいので、おじにとっては危険がいっぱいです。もしも、ユアラがいなければ決してくることはなかったでしょう。ぼくは、背中に、母とおじとユアラの視線を感じて、発表するのにきん張してしまいました。授業の後、おじは、「がんばったね。」とほめてくれました。

ユアラはとても人なつっこい犬で、仕事以外のときはぼくの遊び相手になっています。すぐおなかを出して、(なでてちょうだい。もっともっと。)と甘えてきます。ユアラがきたことで、おじだけではなく、家族みんなが明るくなった気がします。

でも、まだ世の中には盲導犬のことを知らない人がたくさんいます。おじとラーメン屋に行ったとき、入り口で、「犬はだめです。」と言われました。「盲導犬なんです。」と言いましたが、店員は聞き入れてくれませんでした。盲導犬は法律でどこでも入ることができる決められているのに、拒否されて本当に悲しかったです。腹を立てたり文句を言ったりはしません。ただ、ぼくは、世の中の人に、もっと盲導犬に興味をもって、正しく知ってほしいと思っています。ぼくとおじとユアラと一緒にどこへでも行けたら、どこに行こうかな。行ってみたいところ、してみたいこと、ユアラに見せてあげたいことがたくさんあります。そんな日がくることを願っています。

※作文は内閣府ホームページより。2020年11月受賞